

所報



ふれあい、学びあい、深めあう文教のまち大垣

No.310 大垣市教育総合研究所

学習館 TEL74-6666, FAX74-6697

情報工房 TEL75-7020, FAX77-2520

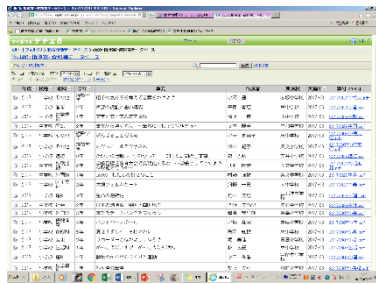
教職員支援グループ（教育情報）より

「OPEN」の活用を！

大垣市では、学校教育に関わる情報をホームページにして立ち上げています。Ogaki city Public school Educational Network system の頭文字をとって「OPEN」と呼んでいます。「OPEN」の運用は平成10年6月から始まりましたので、今年で19年目となります。今回は、「OPEN」の教職員専用ページの一部を紹介します。慣れ親しんできている「OPEN」ですが、みなさんご存知でしょうか？

<トップページ>

①指導案・資料が450！

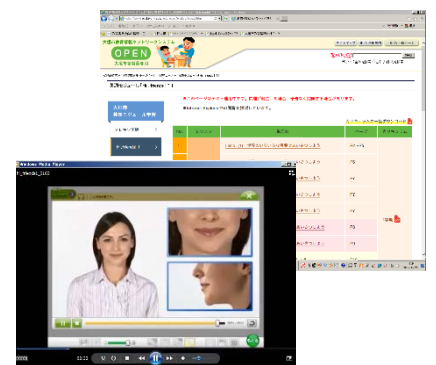


大垣市の教科研などで先生方が作られた指導案，資料が約450おさめられています。教科や学年で簡単に検索することができます！

《教職員専用ページ》



③英語モジュール学習！



英語モジュール学習のカリキュラムや動画がすべておさめられています。次の内容をすぐに見ることができます。

②学級経営の手引き！



学級経営のポイントを示した手引がおさめられています。様々な角度から学級づくりのポイントが示されています。学年ごとの具体的な実践事例もあり、若い先生方には必見の内容です。

この他にも様々なページがあります。「OPEN」は、市内の先生方の力で作られてきた素晴らしいホームページです。先生方の力量を高める情報がたくさんあります。また、校務の軽減につながる情報もたくさんあります。夏休みにぜひ一度のぞいていただき、2学期に向けての教材研究等にご活用ください。

児童生徒支援グループ（少年支援）より

〈 叱るのは ほめるため 〉

「日本の子どもは自己肯定感が低い」と指摘されて久しくなりました。国立青少年教育振興機構が行った「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」では、自己肯定感の高さには子どもの頃の「ほめられた経験」が強く影響しているとし、「ほめる」ことについて解説された書籍も数多く出版されています。その中には「愛される」「認められる」「頼りにされる」「感謝される」など、温かみが前面に出たキーワードが出てきます。研究所としましては、学校支援訪問やSSS事業では子どもたちの良い姿を見付けるようにして、大いにほめるよう活動しています。

「ほめる」ことがクローズアップされたためかどうかは定かではありませんが、いつしか「叱れない先生」という言葉が聞こえるようになってきました。叱ることで子どもに嫌われることを恐れるというのが理由のひとつのようですが、叱るべきときにきちんと叱らないことの方が子どもからの信頼を失います。

では、どのようなときに叱ると良いのでしょうか。植草学園大学名誉教授の野口芳宏先生は、

- ①命に関わる危ないことをしたとき
- ②人の不幸の上に、自分の幸せを築こうとしたとき
- ③3回注意されても直そうとしないとき

の三つを「叱る三原則」としてしています。これを少しアレンジして具体例を挙げたいと思います。

「叱る」3つの場面・具体的な例

- ①命・大ケガに関わる危ないことをしたとき
 - ・窓に腰掛ける
 - ・サッカーやバスケット等のゴールの上に登ったり、ぶら下がったりする
 - ・廊下を全速力で走る
 - ・はさみを投げて渡そうとする
 - ・傘で突っつき合う
 - ・理科や家庭科の授業で、ガスや包丁で遊んだり、ふざけ合ったりする
 - ・プールにふざけて飛び込む
- ②いじめにかかわること
 - ・他の子の失敗をあざ笑う
 - ・隣の席をわざと離す
 - ・掃除の時間などで、気に入らない子の机(の列)だけ運ばない

- ・ノートを返却するとき、気に入らない子のノートを投げるなどぞんざいな扱いをする
 - ・気に入らない子が給食を配ると、露骨に嫌な顔をする
 - ・立場の強い子が好きな給食のメニューが出ると「これ好きなんだ～」と立場の弱い子に聞こえるように大きな声で言い、強要する
 - ・自分が気に入っている子には一生懸命拍手するが、気に入らない子にはいいかげんな拍手しかない
 - ・「隣の子と二人組になりなさい」と指示しても、気に入らない子が相手だと違う子と組もうとする
- ③3回注意されても直そうとしないとき
- ・授業中、私語や手遊びなど他事をする
 - ・船漕ぎ(大ケガにもつながる)をするなど座る姿勢が悪い
 - ・忘れ物を繰り返す
 - ・正当な理由なしに遅刻を繰り返す

私が初任の頃、「怒る」と「叱る」の違いについて、先輩の先生から教えていただきました。自分の拙い指示を子どもが聞かなかつたことに腹を立て感情的に怒っても、子どもは「うるせーな」と思うだけ。また、問題ある行為のみを叱って、その子の人格を否定することのないよう気を付けること。自分のために怒るのではなく、相手(子ども)のために叱るという大切なことを学びました。

研究所は、様々な問題を抱える学校からの要請を受け、学校支援訪問やSSS事業を通して支援するという立場にあります。ですからややもすると、子どもを叱る場面が多いかもしれません。しかしそれは、「その子自身が良くなってほしい」「仲間と一緒に笑顔で健やかに育ってほしい」という願いをもっているからこそ叱るのです。叱ることで、その子が悪かった行動を悔いて二度としないと反省し、良い姿に変わればほめることができます。子どもはほめられれば、また別の良い姿を見せてくれ、さらにほめることができます。叱ることは「愛される」「認められる」「頼りにされる」「感謝される」につながる大切な指導であると考えます。



《教育総合研究所にかかわる8・9月の行事》

8月 2日(水)	夏季研これから講座「生徒指導」	8月 21日(月)	夏季研これから講座「特別支援」
3日(木)	教職員研修会	23日(水)	中堅層教員研修会
4日(金)	夏季研これから講座「道徳」	9月 8日(金)	ほほえみ教室 始業式
	夏季研これから講座「論文」	28日(木)	教育相談研修会
18日(金)	第2回教科別研究会		